



海辺のお宝、ふるさとマッピング（印刷用）

■ 概要

海岸を歩いて、漂着物のなかから気になる「お宝」を集め、それらを「海/陸（森）/空/人工物」などに分けます。その後、模造紙に集めた漂着物がやってきた場所を説明できる絵を描き、絵の上に集めたものを置いていきます。これらを通して、さまざまな場所から海に多様なものが流れ着いていることを学びます。

■ 学べること

- 身近な海岸が、遠くの海や森、人間生活（町の暮らし）につながっていることを知る。
- 海岸に流れ着いているものには、自然物だけでなく、プラスチック容器などの人工物がとても多いことに気づく。
- 人間の生活が自然界に与えている影響への気づきを通して、ライフスタイルの変容を促す。

■ 準備するもの

- ◆見本の漂着物…採集の同期付けになるようなものの数点
- ◆漂着物を入れる袋（汚れても、濡れてもいいもの）…参加者個々が用意
- ◆軍手…参加者数あるとよい
- ◆トング
- ◆模造紙大の白い紙（ポスターなどの裏面で可）
- ◆サインペン・クレヨン等…参加者がみんなで使える数（グループごとにあるとよい）

＊服装：海岸は日陰等も少なく、砂や海面からの照り返しの強い場所でもあります。また夏でも風が強いと体温が奪われます。季節に関わらず帽子や長袖の上着を用意するように参加者に伝えましょう。靴もサンダルではなく、足全体をカバーできる「濡れてもよいスニーカー」などがよいでしょう。

■ 事前の準備

1. 潮汐表を確認して、日程と時間を決めます。

ビーチコーミングは浜辺が広くなる、中潮～大潮の潮が引いている時間に行くと危険が少なく、漂着物も多く見られます。インターネットで『潮汐表』を確認し、昼間に潮が引く（潮位が低くなる）時間を探して実施日と時間を決めましょう。



◎実施場所：海岸＋室内
◎所要時間：1時間～1時間30分



＊注！
実施の前に「安全管理について」を一通り読んでください。「海ならではの危険」についてもまとめています。
<https://lab2c.net/instruction/safety>





2. 危険な場所や生物を事前にチェックしておきましょう。

ビーチコーミングを行う海岸は下見をして、川が流れ込んでいるところや、ガラスなどの廃棄物が多いところなど、危険な場所をチェックし、活動範囲を決めます。

地域によっては行政などで定期的に海岸清掃を行っているところもあります。海岸清掃のあとでは収集物が少なくなるので、それらのチェックも忘れずに。

3. 漂着物の見本を集めます。

参加者がどのようなものが浜辺で拾えるのか、漂着物の収集に興味を持てるように、参加者が興味を持ちそうな漂着物を事前に集めておきます。

例：・外国語のラベルがついたペットボトルなどの容器類

・形、模様がきれいな陶器やガラスの欠片

・色や模様がきれいな貝殻

・プラスチックの人形やおもちゃ

・トリの羽根や骨



動物の食跡のあるクルミの種



波で角が削られたガラスや陶器のカケラ



色やデザインがきれいな、カニの爪やウニの殻など、海の生きものの命のカケラも。

* 注意！

生きものや死骸を見つけたときにはむやみに触らず、スタッフに知らせるように伝えましょう。まだ死後乾燥していないものは、毒を持っていたり細菌感染の危険があるので、素手でつかまず tong や軍手でつかみます。

漂着物を触ったあとは、必ずしっかりと手を洗いましょう。

◆ポイント！

海藻やごみの吹きだまりの下に「お宝」が隠れていることが多い！

■ 実施の仕方

1. 浜辺で拾ったおもしろい漂着物を見せて、動機づけを行います。

あらかじめ浜辺で拾っておいた「漂着物」を見せて、海岸で拾えるものに興味を導きます。

例：「これから海岸でお宝探しをします。みなさんは海岸にどんなお宝があると思いますか？（参加者からの意見を聞く）。じゃじゃ〜ん。これは私が数日前にこの海岸で拾ったものです。何だと思えますか？（いくつかの漂着物を順番に見せて、意見を聞く）では、これから海岸に行って『きれいだなあ』『これは何だろう？』『持って帰りたい』『誰かに見せたい』と思ったものを探してきます。海藻の下や、草むらの中にもお宝が隠れていることがあるので、いろんなところを探してみてください。

2. 海岸で「気になるもの」を探します。

スタート地点とゴール地点を決めて、ゆっくりと歩きながら海岸で「お宝」を探していきます。「お宝」は自然のものでも、人工物でも OK。スタート前に集合時間を伝え、できればスタッフが観察の様子をフォローしながら進みます。

海岸を見ると、「大潮の満潮ライン」「今日の満潮ライン」など漂着物がたまっている線があります。とくに大潮の満潮ラインには海藻や人工物のごみにまぎれてヒトデやカニの甲羅など、生物のカケラがまぎれていることがあります。海藻などをひっくり返してよく観察するように進めてみましょう。





また波打ち際に近いところには、不思議な生きものや砂の塊（生物の卵や食べかすのことも）などが見つかることがあります。幅広く歩いてみるように誘導しましょう。

3. 「自然のもの/人工物」「海/森（陸）」に分けます。

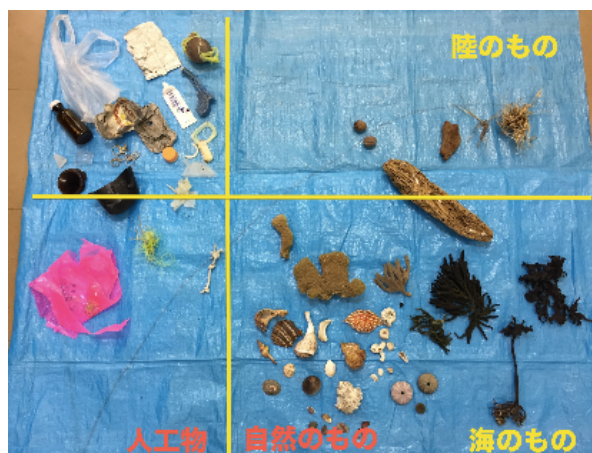
拾って来た「お宝」から、それぞれの参加者がいちばんみんなに見せたいお宝をひとつ選び、「どこで拾ったか」「どんなものだと思うか」「どこが気に入っているか」などを順番に発表してもらいます。

その後、みんなが拾ってきたものを一か所に集め、「自然のもの/人工物」「海から来たもの/森（陸）から来たもの」に分けます。ときには「空から来たもの」があることも。分ける過程で、どのようなものなのかをみんなで話あいましょう。人数が多いときにはグループに分かれて実施します。

砂浜で行うときには、砂に線を描いて分けます。室内で行う時はブルーシートに線を引いて分けて行きましょう。

【分類例】

センコウガイがすみついていて穴だらけになった流木は、海と陸の間に分類。浮き袋の破片は海に分類しました。



4. どこからきたのか…を想像して絵を描き、漂着物を置いて、作品『海辺のお宝、ふるさと地図』をつくります。

時間があれば、自分たちの拾ったそれぞれの漂着物が来た（発生した）場所が分かるような絵を描いて、漂着物を絵の上に置き、作品『海辺のお宝、ふるさと地図』を作成してみましょう。

日本地図、世界地図、地球、山から川が流れて町・海へとつながる絵…どのような絵でも OK です。集めた物ができるだけ置くことができる絵を、参加者同士で話し合っ決めて描きます。

例：「海岸で見つけたものには、遠い海から来た物や海の底からやってきたもの、森や林から川を伝わってきたもの、町のなかから来たもの、海岸で捨てられたものなど、いろいろなものがありましたね。それらがやって来た場所がわかるような絵を模造紙に描いて、絵の上に見つけてきたものを置いてみましょう。見つけた物がぜん

◆ポイント！

スタッフは、参加者の拾っているもののバランスを見ながら、人工物（ペットボトルやビニールひもなどのプラスチックゴミ）を拾っておきましょう。

◆ポイント！

人工物も海で使われた物が陸（町など）で使われていた物を分けてみると、ごみの発生個所が明確になっていきます。

◆ポイント！

漂着物が何か分からないときには、写真を撮ってあとで調べてみるとより深い学習につながります。同じ海岸で複数回行える場合は、特徴的なものや「人工物/海/山/空」などのブロックで写真に残しておくと、季節による変化など海岸の特徴がよくわかります。

◆ポイント！

実施時間が短い時や、参加者の集中力が保てないと判断したときには4. 地図の制作は省き、5. 活動のまとめに進んでもいいでしょう。





ぶ置ける絵はどんな絵がいいか、みんなで話あって決めてください。」



5. わかったこと、気づいたことを共有します。

これまでの活動を振り返って気づいたこと、考えてことなどを参加者に発表してもらいます。

発表に慣れていない参加者の場合は、必要に応じてワークシート『海辺のお宝からのメッセージ』を使い、気づいたことなどを書いてから発表してもいいでしょう。

7. 「海岸の漂着物とごみ」についての、まとめの説明。

海岸の漂着物とごみについて、まとめの説明をします。

例：海岸は陸の端っこだと思いますが、海岸は陸と海の出会う場所、目の前の海は遠い外国にもつながる海です。そして海底は広くて深く、多くの生きものが暮らしています。また、海岸には森で育った木の実や枝、ときには大きな木が川を伝わって流れてきます。そして、町で使われたいろいろなごみも風に飛ばされたり、川に流されたりしてやってきます。私たちが今立っているこの浜辺は、そういうたくさんのところとつながっている場所です。もちろん、みんなが暮らしている場所とも水（雨・水道水・川など）や空気（風）などでつながっています。それを忘れないで毎日を過ごしてください。

◆ポイント！

時間の余裕があれば、海洋漂着ごみの現状が説明されたパネルなどを使って解説をするとよいでしょう。

漂着ゴミの現状についての資料・解説上の注意は別教材「つなげてみよう！ 漂着物の赤い糸」をご覧ください。

